ViewFile Media Converter

取扱説明書

ご使用になる前にこの取扱説明書を良くお読みください。お読みになった後はいつでも見られるところに大切に保管してください。

目次

はじめに 3
ViewFile Media Converter とは 3
特長 3
動作環境 4
対応メディアフォーマット（作成元メディア） 5
作成可能メディアフォーマット 5
オンラインヘルプについて 5
インストール 6
ライセンスコードについて 7
使ってみる 8
初回起動時 8
DVD-RAM ディスク作成操作の流れ 9
DVD-RAM メディア作成操作例 9
手順１：メディア種別（使用機種）の選択 10
手順２：DVD-RAM ドライブの選択 11
手順３：メディアストックに MO ディスクを追加 12
手順４：DVD-RAM メディアの作成 14
メインウィンドウ 16
作成メディア 17
メディアストック 24
メディアバックアップ 33
メニュー 37
設定 43
オプション 43
高度な設定 44
ログファイル設定 44

ティアック株式会社 2007 年 9 月（Ver.2.0.0）

Microsoft Windows は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

EICP-S、EICP-D はオリンパスメディカルシステムズ株式会社の登録商標です。

Nemio は東芝メディカルシステムズ株式会社の登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

はじめに

ViewFile Media Converter とは

ViewFile Media Converter は TEAC MV シリーズ等で記録した
1 枚以上の MO ディスクや DVD-RAM ディスクから、TEAC MV-S10/H10/D10/OLYMPUS EICP-D で再生／追加記録が可能な 1 枚の DVD-RAM ディスクメディアを作成するソフトウェアです。

特長

- MV 旧モデル（MO ドライブ搭載モデル）ご使用のお客様が DVD-RAM モデルにアップグレードする際のメディア変換ツールとしてご使用頂けます。
- DVD-RAM メディアの大容量を生かし、230MB の MO ディスクであれば約 15 枚、640MB の MO ディスクであれば約 6 枚のメディアを 1 枚の DVD-RAM ディスクにまとめることができます。
- 従来の SD(NTSC)画像を TEAC MV-H10/D10／OLYMPUS EICP-D（A-Set）の HD（高解像度）画像に変換することができます（画質が向上するわけではありません）。
  以前に記録した SD 画像を表示するために別途モニタを用意する必要がなくなります。
- 異なるフォーマットの元ディスクを混在させて DVD-RAM ディスクを作成することができます。
- 作成する DVD-RAM ディスクのバックアップをハードディスクに作成します。バックアップメディアから再度同じ DVD-RAM ディスクを作成できます。

動作環境

オペレーティングシステム	Microsoft 2000/XP/Vista Windows 95/98/Me/NT 4.0 では動作しません。
CPU	Intel Pentium Ⅲ1GHz 以上（Pentium4 3GHz 以上を推奨） CPU が高速であるほどメディア作成に要する時間を短縮することができます。
メモリ	128MB 以上（256MB 以上を推奨）
ハードディスク	ViewFile Media Converter プログラム領域として 10MB 以上
ディスプレイ	1024×768×16 ビットカラー以上
CD-ROM	インストール用として 4 倍速以上の CD-ROM ドライブ CD-ROM 版以外の ViewFile Media Converter をインストールする場合は不要
MO ドライブ	作成元 MO ディスクを読み込む場合に必要です。
DVD-RAM ドライブ	DVD-RAM メディアを作成する場合には UDF 1.5 フォーマットの書込みが可能な DVD-RAM ドライブが必要です（5 倍速以上を推奨）。UDF 2.0 フォーマットの書込みのみに対応する DVD-RAM ドライブでは作成できません。

推奨 DVD-RAM ドライブ

- 株式会社アイ・オー・データ機器　DVR-UM16CR
  DVR-UEM16CR
  DVD-RAM ドライブに付属する DVD-RAM ドライバソフトウェアをインストールしてください。
- 株式会社アイ・オー・データ機器　DVR-UM16CV
  DVD-RAM ドライブに付属する B's CLiP 7 以降をインストールしてください。

その他のソフトウェア

TEAC DV-700 で記録した DVD-RAM ディスクを作成元メディアとして使用する場合は以下のソフトウェアが必要です。

- Microsoft DirectX 7.0 以降（GT Finder CD-ROM 内に DirectX 9 のセットアッププログラムが収められています。）
- Ulead Video Studio 6.01 以降

対応メディアフォーマット（作成元メディア）

MO ディスク

■ TEAC MV-200/250/50M/55M/60M/65/70/71（MV-200/250 の TIFF 画像には対応していません。）

■ TEAC MV-150/180/180F

■ OLYMPUS EICP-S

■ TOSHIBA Nemio 内蔵 MO（拡張子が BMC（情報付非圧縮静止画像）のファイルには対応していません。）

■ Canon CR-DG10

■ その他

DVD-RAM ディスク

■ TEAC MV-S10/H10/D10
■ OLYMPUS EICP-D

■ TEAC DV-700
・ DV-700 で記録した DVD-RAM ディスクを作成元メディアとして使用する為には、Microsoft DirectX 7.0 以降と Ulead Video Studio 6.01 以降が共にコンピュータにインストールされている必要があります。Windows XP には標準で DirectX 7.0 以降がインストールされています。Ulead Video Studio は TEAC DV-700 に付属しています。
・ 動画ファイルは静止画に変換されます。動画内の静止画抽出位置は ViewFile Media Converter で設定します。

作成可能メディアフォーマット

■ TEAC MV-S10/H10/D10
■ OLYMPUS EICP-D
※ いずれの機種も動画の記録／再生には対応していません。

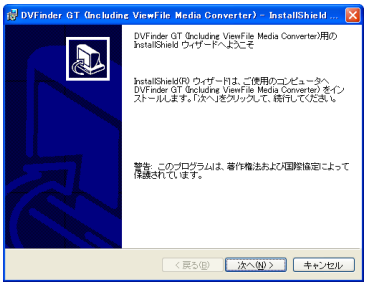
オンラインヘルプについて

ViewFile Media Converter 実行中はいつでもオンラインヘルプを参照することができます。
オンラインヘルプを表示するには、<F1>キーを押すか、「ヘルプ」メニュー→「トピックの検索」を選択します。
本バージョンではオンラインヘルプを表示することはできません。

インストール

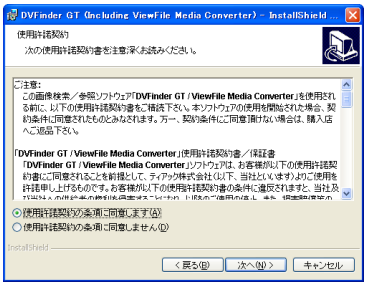
ViewFile Media Converter は GT Finder と共にインストールされます。
以下は GT Finder のインストール手順です。

GT Finder/ViewFile Media Converter の CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブに入れると自動的にセットアッププログラムが起動し、インストールを開始します。

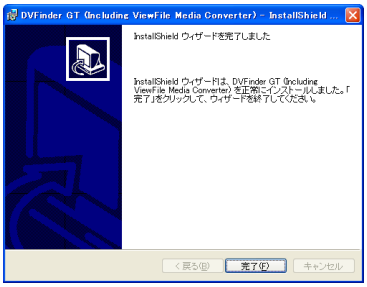

DVFinder GT (including ViewFile Media Converter) - InstallShield ...
DVFinder GT (including ViewFile Media Converter)用の InstallShield ウィザードへようこそ
InstallShield(R) ウィザードは、ご使用のコンピュータへ DVFinder GT (including ViewFile Media Converter) をインストールします。「次へ」をクリックして、続行してください。
警告: このプログラムは、著作権法および国際協定によって保護されています。
< 戻る(B)
次へ(N) >
キャンセル

セットアッププログラムが起動しない場合は「マイコンピュータ」→「GT Finder/ViewFile Media Converter の CD-ROM が入っている CD-ROM ドライブ」を開き、setup.exe をダブルクリックしてください。

インストール中に設定が必要な項目はありませんが、インストールを続行するには使用許諾契約に同意する必要があります。
同意頂けない場合はインストールを続行することはできません。



以上で GT Finder/ViewFile Media Converter のインストールは終了です。



DVD-RAM メディアを作成するにはコンピュータに DVD-RAM ドライバソフトウェア、または B's CLiP 7 以降をインストールする必要があります。
DVD-RAM ドライバ／B's CLiP 7 以降のインストール方法についてはお使いの DVD-RAM ドライブの取扱説明書をご覧下さい。

DV-700 で記録したメディアを作成元メディアにする場合は、Ulead Video Studio（DV-700 に付属）のインストールも必要です。
Windows XP 以外のオペレーティングシステムをご使用の場合は、さらに DirectX のインストールも必要です。
GT Finder の CD-ROM 内、DirectX9 フォルダに DirectX のセットアッププログラムが収められています。

ライセンスコードについて

ViewFile Media Converter 初回起動時に、ライセンスコードを入力するダイアログを表示します。

既に GT Finder でライセンスコードを入力済みであれば、このダイアログは表示されません。

GT Finder/ViewFile Media Converter パッケージに同梱のライセンス証書に記載されているライセンスコードを正確に入力して「OK」ボタンをクリックして下さい。
有効なライセンスコードを入力すると、次回以降の起動時はこのダイアログを表示しません。

ライセンスコードは GT Finder と ViewFile Media Converter で共通です。

GT Finder/ViewFile Media Converter をインストールするコンピュータ 1 台につきライセンスコードが 1 つ必要です。

GT Finder と異なり、ViewFile Media Converter には評価用ライセンスコードはありません。
ViewFile Media Converter を使用するには正規ライセンスコードの入力が必要です。

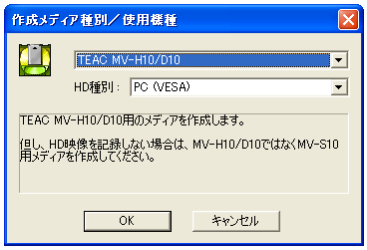
使ってみる

この章では、ViewFIle Media Converter を起動してから DVD-RAM メディアを作成するために必要な一通りの操作を説明します。

初回起動時

ViewFile Media Converter の初回起動時にいくつかの設定項目を入力します。

使用機種(作成メディア種別)の選択



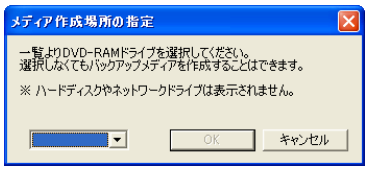
作成する DVD-RAM メディアをどの機種で使用するかを選択します。

TEAC MV-H10/D10、TEAC MV-S10、OLYMPUS EICP-D（A-Set）、OLYMPUS EICP-D（B-Set）のいずれかを選択してください。TEAC MV-H10 を選択した場合は、必ず「HD 種別」にて接続する診断装置を選択してください。

後で使用機種を変更することができます。

作成メディア種別の選択を誤ったまま DVD-RAM メディアを作成すると、該当機種で再生できない、または診断装置のモニタ上での表示位置がずれることがあります。

DVD-RAM ドライブの選択

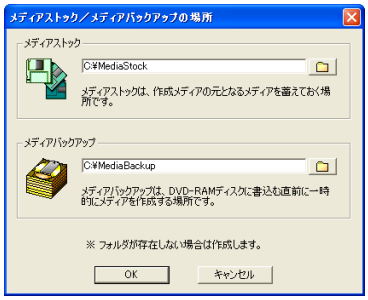


DVD-RAM メディアを作成する為に使用する DVD-RAM ドライブを選択します。

後で DVD-RAM ドライブを変更することができます。

DVD-RAM ディスクを作成せずに、ハードディスク（メディアバックアップ）にメディアを作成する場合は指定する必要はありません。

メディアストックとメディアバックアップの場所の指定



メディアストックとメディアバックアップの場所を指定します。
通常は初期設定から変更する必要はありません。
フォルダが存在しない場合は ViewFile Media Converter が作成します。

メディアストック、メディアバックアップ共に指定する必要があります。
いずれかが指定されていない場合はメディアを作成することができません。

DVD-RAM ディスク作成操作の流れ

MO ディスク複数枚から DVD-RAM メディアを作成する操作の概略は以下の通りです。

① 作成する DVD-RAM メディアの元となる MO ディスクや DVD-RAM ディスク全てをメディアストックに追加します。

↓

② 作成する DVD-RAM メディアの使用機種で再生できるように画像の解像度を変換します。
通常は、メディアストックへの追加が終了すると、自動的にこの処理が行われます。

↓

③ DVD-RAM メディアを作成します。

DVD-RAM メディアを作成せずに、（将来 DVD-RAM を作成する為の）バックアップメディアのみをハードディスクに作成することもできます。

DVD-RAM メディア作成操作例

例として、複数 MO ディスクから DVD-RAM メディアを作成する操作手順を解説します。

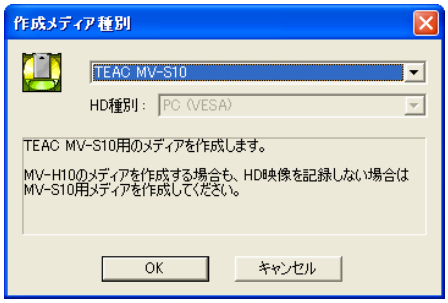
作成元ディスク（例）

MV-55M で記録した MO ディスク（230MB）	15 枚
MV-180 で記録した MO ディスク（640MB）	5 枚

上記の MO ディスクから、MV-S10 で使用可能な DVD-RAM メディアを作成します。

手順 1:メディア種別(使用機種)の選択

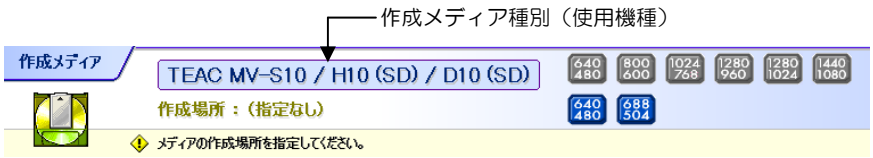
MV-S10 用の DVD-RAM メディアを作成する為、メディア種別を MV-S10 に変更します。
メディア種別を変更するには、「使用機種」ボタンをクリックします。



TEAC MV-S10 を選択して「OK」ボタンをクリックします。

作成メディア種別を MV-S10 に変更すると、メインウィンドウの作成メディアペインの表示が更新されます。

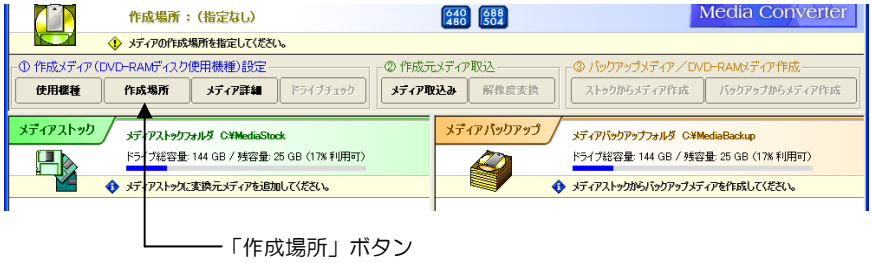
メインウィンドウ上部の領域を「作成メディアペイン」と呼びます。

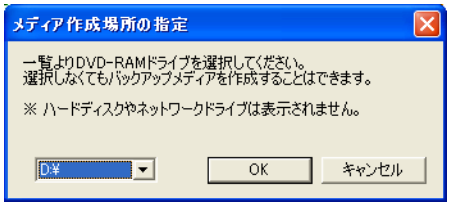


作成メディア種別の右側には、そのメディアで記録可能な画像解像度（横ピクセル数×縦ピクセル数）を表示します。
赤色（上段）は HD（高解像度）、青色（下段）は SD（NTSC）で記録可能な画像解像度を示します。
記録できない（非対応の）解像度は灰色で表示します。

手順 2:DVD-RAM ドライブの選択

「作成場所」ボタンをクリックして MV-S10 用の DVD-RAM メディアを作成するDVD-RAM ドライブを選択します。

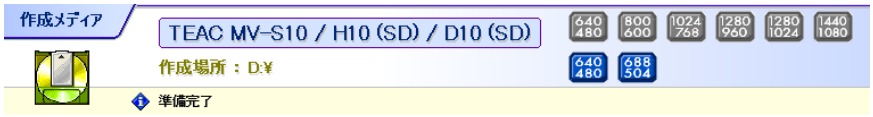




DVD-RAM ドライブを選択して「OK」ボタンをクリックします。この例では、“D”ドライブが DVD-RAM ドライブです。

DVD-RAM ドライブはコンピュータによって異なります。エクスプローラ等で DVD-RAM ドライブを確認の上選択してください。

メディア作成場所を指定すると、メインウィンドウの作成メディアペインの表示が更新されます。



指定したドライブに DVD-RAM ディスクがあり、且つメディアを作成可能であれば「準備完了」と表示します。

DVD-RAM ディスクは UDF 1.5 フォーマットで初期化されているか、または MV-S10/H10/D10、EICP-D でフォーマットされている必要があります。

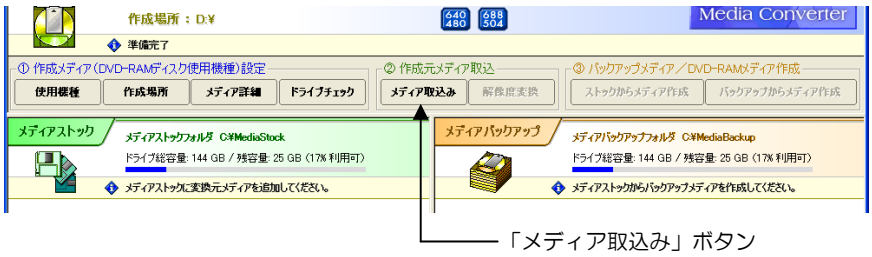
手順 3:メディアストックに MO ディスクを追加

20 枚の MO ディスク(MV-55M で記録した 15 枚の MO ディスクと MV-180 で記録した 5 枚の MO ディスク）をメディアストックに追加します。この例では“E”ドライブが MO ドライブです。

以下のように、MO をメディアストックに追加する 2 通りの方法があります。どちらの方法でも同じ結果になります。

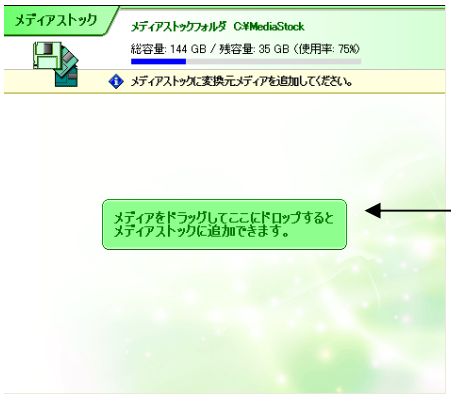
a. 「メディア取込み」ボタンをクリックして MO ディスクがあるドライブを指定する。

任意の順番でメディアストックに MO ディスクを追加することができます。
MO ディスクに記録されている検査日等を考慮する必要はありません。



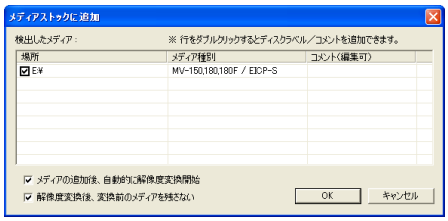
「メディア取込み」ボタン

b. MO ドライブをドラッグしてメディアストックにドロップする。

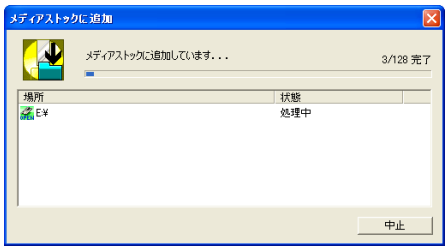


MO ドライブをドロップします。

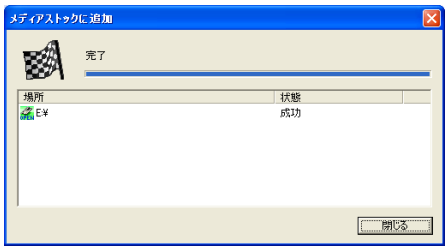
ViewFile Media Converter が認識したメディアを表示します。「OK」ボタンをクリックすると MO ディスクに記録されている全検査をメディアストックにコピーします。



MO ディスクからメディアストックへのコピーを開始します。



メディアストックにコピー中

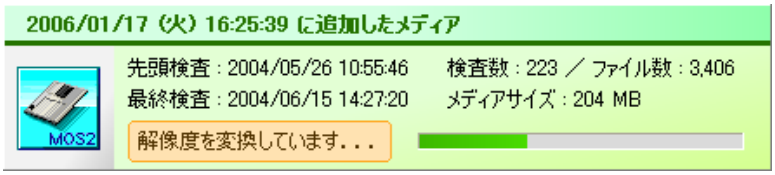


メディアストックへの追加完了

MO ディスクに記録されている全てのファイルをメディアストック（ハードディスク）にコピーする為、MO ディスク使用容量によって所要時間が変わります。MO ディスクの追加が終了したら、その MO ディスクを取り出して別の MO ディスクを追加します。

この操作を MO ディスクの数（20 枚）分繰り返し、全ての MO ディスクをメディアストックに追加します。

メディアストックに 1 枚の MO ディスクの追加が終了すると、記録されている全ての画像の解像度（横ピクセル数×縦ピクセル数）を、自動的に MV-S10 が対応する解像度に変換します。



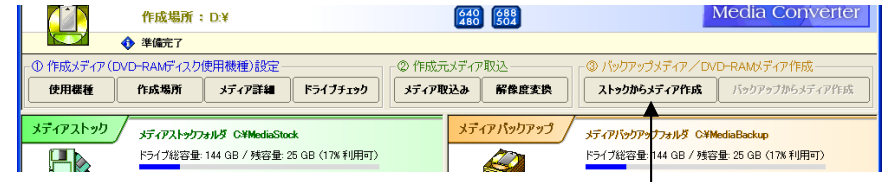
初期設定では、解像度変換は自動的に行われます。そのため、特に操作をする必要はありません。
複数メディアの解像度変換が同時に実行されることはありません。

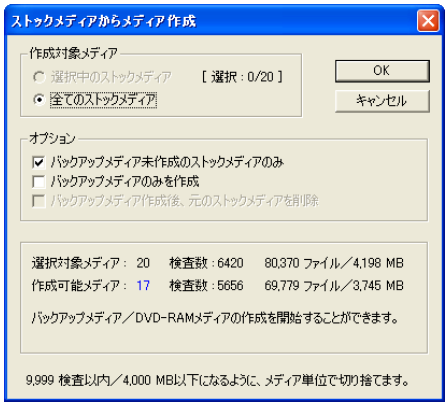
手順 4:DVD-RAM メディアの作成

全ての MO ディスクをメディアストックに追加すると、DVD-RAM メディアを作成することができます。

DVD-RAM メディアを作成するには、「ストックからメディア作成」ボタンをクリックします。

解像度変換中のメディアがあると「ストックからメディア作成」ボタンは無効になります。
解像度変換が終了するまでお待ち下さい。





DVD-RAM メディアを作成する為に使用可能なストックメディアが自動的に選択されます。
先頭検査開始日時が古い順にストックメディアを選択します。

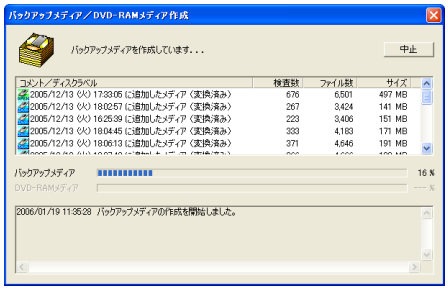
一度 DVD-RAM メディアを作成する為に使用したストックメディアは[作成済み]とマークされ、以後 DVD-RAM メディアの作成候補から除外されます。
「バックアップメディア未作成のストックメディアのみ」のチェックを外すと、DVD-RAM メディア作成済みのストックメディアからも再び DVD-RAM メディアを作成することができます。

「バックアップメディアのみ作成」をチェックすると、DVD-RAM メディアの作成は行わずにバックアップメディアのみを作成します。
作成したバックアップメディアから、後で DVD-RAM メディアを作成できます。

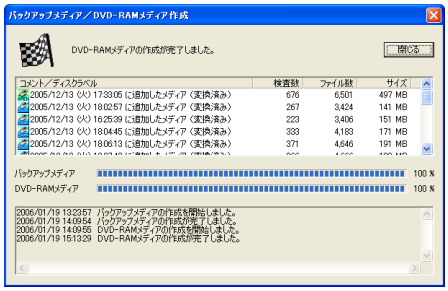
DVD-RAM メディアに作成可能な最大検査数は 9,999 検査、また、合計ファイルサイズは 4,000MB までです。ViewFile Media Converter は自動的に検査数と合計ファイルサイズを計算して、できるだけ多くのストックメディアを選択します。
この例では、20 枚全てのメディアが 1 枚の DVD-RAM ディスクに収まらないため、17 枚のみを使用してバックアップメディアと DVD-RAM メディアを作成します。
この場合は、残り 3 枚分は別の DVD-RAM メディアとして作成することになります。

「OK」ボタンをクリックすると、バックアップメディア／DVD-RAM メディアの作成を開始します。

バックアップメディア→DVD-RAM メディアの順にメディアを作成します。
バックアップメディア／DVD-RAM メディアの作成中、特に必要な操作はありません。



バックアップメディア作成中



バックアップメディア／DVD-RAM メディア作成完了

完成した DVD-RAM メディアを取出して新たな（初期化済みの）DVD-RAM ディスクを挿入し、「ストックからメディア作成」ボタンをクリックして残り３枚分のストックメディアから DVD-RAM メディアを作成します。

ViewFile Media Converter は、未作成である３枚分のストックメディアを自動的に選択します。
初期設定のまま設定を変更していなければ、１ 枚目の DVD-RAM メディア作成手順と全く同じ操作で、残り３枚分のストックメディアから DVD-RAM メディアを作成できます。

バックアップメディア／DVD-RAM メディアの作成に要する時間はお使いのコンピュータによって異なります。
より高性能な CPU、ハードディスクを搭載するコンピュータの方が高速に作成することができます。
また、DVD-RAM ドライブの書込み可能速度、DVD-RAM ディスクが対応する書込み速度によっても DVD-RAM メディアの作成所要時間は変わります。

メインウィンドウ

ViewFile Media Converter を起動したときに表示されるウィンドウがメインウィンドウです。

メインウィンドウは、大きく３つの領域（ペイン）に分かれています。

ツールバーの各ボタンは同名のメニューに対応しています。

「作成メディア」ボタン
「メディア」メニューの「作成メディア」に対応します。

「メディアストック」ボタン
「メディア」メニューの「メディアストック」に対応します。

「メディアバックアップ」ボタン
「メディア」メニューの「メディアバックアップ」に対応します。

■ 作成メディアペイン（上部）

作成する DVD-RAM メディアについて設定内容を表示します。

■ メディアストックペイン（左下部）

メディアストックに追加した作成元メディアを表示します。

DVD-RAM メディアを作成する為には、メディアストックに作成元メディア（MO ディスク等）を追加する必要があります。

メディアストックはハードディスク上の領域です。

■ メディアバックアップペイン（右下部）

作成した DVD-RAM メディアのバックアップメディアを表示します。

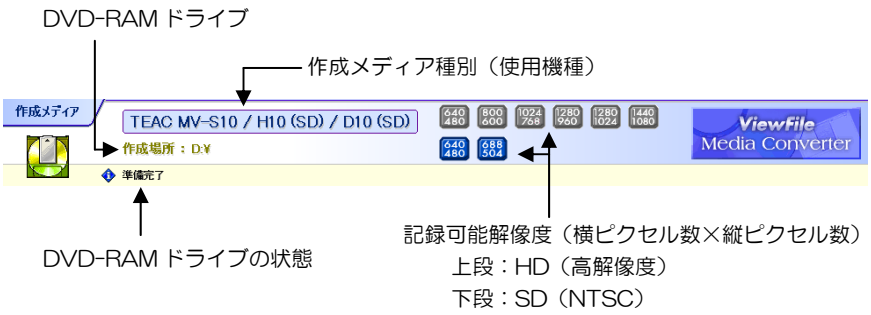
ViewFile Media Converter は、DVD-RAM メディアを作成する直前に必ずバックアップメディアを作成します。

メディアバックアップはハードディスク上の領域です。

作成メディア

● 作成メディアペイン

作成メディアペインには、作成する DVD-RAM メディアに関する情報や状態を表示します。



◇ 作成メディア種別（使用機種）

作成する DVD-RAM メディアを使用する機種を表示します。

作成メディア種別（使用機種）の選択を誤ると、診断装置のモニタに再生画像を表示できないことがあります。

◇ DVD-RAM ドライブ

DVD-RAM メディアを作成する DVD-RAM ドライブを表示します。

◇ 記録可能解像度

作成メディア種別ごとに記録可能な画像解像度が決まっています。
現在の作成メディア種別（使用機種）で記録可能な解像度を表示します。
記録可能な解像度は、HD の場合は赤、SD の場合は青で、記録できない解像度は灰色で表示します。

TEAC MV-S10、OLYMPUS EICP-D（B-Set）では HD（高解像度）画像を記録／再生することはできません。

◇ DVD-RAM ドライブの状態

指定した DVD-RAM ドライブにフォーマット済みの DVD-RAM ディスクがある場合は［準備完了］と表示し、DVD-RAM メディアの作成が可能であることを示します。
DVD-RAM ディスクが挿入されていない場合や、DVD-RAM ディスクが書込み禁止の場合等、DVD-RAM メディアの作成ができない場合はその旨メッセージを表示します。

DVD-RAM ディスクはメディア使用機種でフォーマットされているか、UDF 1.5 フォーマットで初期化されている必要があります。
その他のフォーマットで初期化した DVD-RAM ディスクは使用できません。

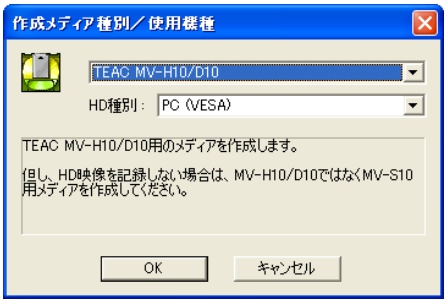
書込み可能なディスクであるにも関わらず［メディアは書込禁止です。］と表示される場合、DVD-RAM ドライブが UDF 1.5 フォーマットでの書込みに対応していない可能性があります。

● 作成メディア種別（使用機種）の選択

作成メディア種別を変更するには「メディア」メニュー→「作成メディア」→「作成メディア種別／使用機種」を選択します。

作成メディアペイン下の「メディア種別」ショートカットボタンでも同様の操作が可能です。

「作成メディア種別／使用機種」ボタン



ViewFile Media Converter が作成できる DVD-RAM ディスクは以下の４種類です。

◇ TEAC MV-H10/D10　　HD／ハイビジョン／SD 対応
◇ TEAC MV-S10　　SD のみ対応
◇ OLYMPUS EICP-D（A-Set）　　ハイビジョン／SD 対応
◇ OLYMPUS EICP-D（B-Set）　　SD のみ対応

メディア種別を選択して「OK」ボタンをクリックしてください。

※ TEAC MV-H10/D10 を選択した場合は、必ず「HD 種別」から MV-H10／D10 を接続する診断装置を選択してください。
※ TEAC MV-H10/D10 で使用する場合でも、HD（高解像度）画像を記録しない場合は TEAC MV-S10 を選択してください。
※ OLYMPUS EICP-D（A-Set）で使用する場合でも、ハイビジョン画像を記録しない場合は OLYMPUS EICP-D（B-Set）を選択してください。

注意事項

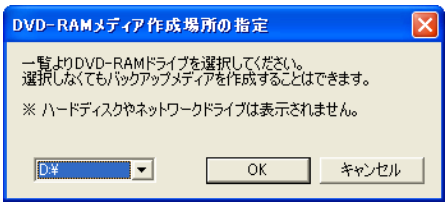
メディア種別の選択を誤ったまま DVD-RAM メディアを作成すると、再生できない／画像表示位置がずれることがあります。

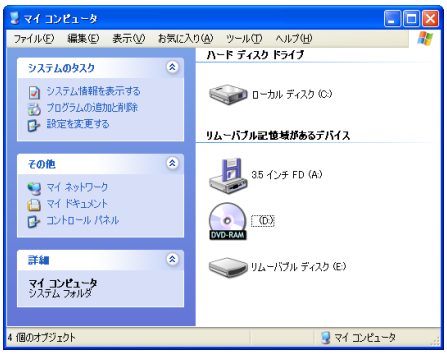
● DVD-RAM ドライブの指定

DVD-RAM ドライブを指定するには「メディア」メニュー→「作成メディア」→「作成場所／DVD-RAM ドライブ」を選択します。

作成メディアペイン下の「作成場所」ショートカットボタンでも同様の操作が可能です。

「作成場所」ボタン





DVD-RAM ドライブが割り当てられているドライブ名はコンピュータによって異なります。エクスプローラ（マイコンピュータ）等で確認してください。

DVD-RAM ドライブを指定しないと DVD-RAM メディアを作成することはできませんが、バックアップメディアを（ハードディスク内メディアバックアップに）作成することはできます。

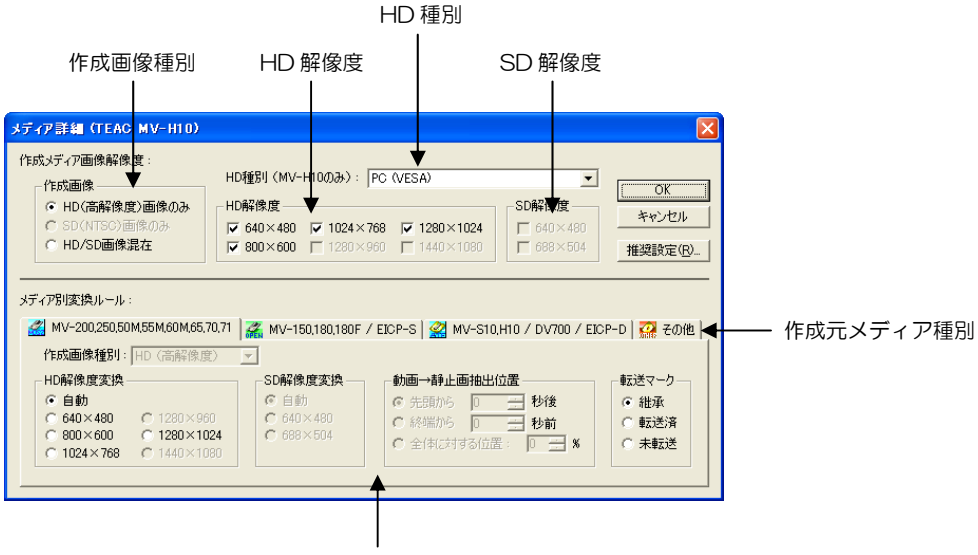
● 作成メディア詳細設定

作成メディアペイン下の「メディア詳細」ショートカットボタンでも同様の操作が可能です。

「メディア詳細」ボタン

作成メディア詳細設定を行うには「メディア」メニュー→「作成メディア」→「詳細」を選択します。
作成メディア詳細設定ダイアログでは、作成メディアに記録する画像の解像度の指定、DV-700 で記録したメディアに記録されている動画ファイルから静止画を抽出する位置の指定、転送マークの設定を行えます。

※　通常、設定を変更する必要はありません。誤って変更してしまった場合は「推奨設定」ボタンをクリックすると初期設定に戻すことができます。



ダイアログ上部の設定項目で、作成する DVD-RAM メディアに記録する画像の種別（HD/SD）と、画像の解像度を指定します。また、下部の設定項目で作成元メディア種別ごとに解像度等を特定することができます。

※　詳細設定を必要とするのは、以下のような場合です。

① 作成メディアに記録する画像のサイズ（解像度）を固定する。
② 動画から静止画を抽出する位置を指定する。
③ 転送マークを記録／解除する。

メディア詳細設定の設定項目は、ストックメディアの画像解像度を変換する際に、元の画像を拡大／縮小するサイズを決定する為に使用されます。
解像度変換後のストックメディアやバックアップメディアには影響を与えません。

使用機種毎に記録可能な画像種別（HD/SD）と、解像度は決まっています。MV-H10/D10 の場合は接続する診断装置によって記録する解像度が決まります。

作成メディア画像解像度

◇ 作成画像

作成メディアに記録する画像種別（HD/SD）を選択します。

- MV-H10/D10　「HD（高解像度）画像のみ」／「SD（NTSC）画像のみ」の他に「HD/SD 画像混在」も選択できます。
- MV-S10　「SD（NTSC）画像のみ」だけが有効です。
- EICP-D（A-Set）　「HD（高解像度）画像のみ」／「SD（NTSC）画像のみ」の他に「HD/SD 画像混在」も選択できます。
- EICP-D（B-Set）　「SD（NTSC）画像のみ」だけが有効です。

通常、HD 画像を表示できるモニタと、SD 画像を表示できるモニタは異なります。そのため、HD/SD 画像の混在はお奨めしません。

◇ HD 種別

MV-H10 選択時のみ有効です。MV-H10 を接続する診断装置を選択してください。選択した診断装置のモニタで表示可能な解像度のみが有効になります。

◇ HD 解像度

作成する HD 画像の解像度候補を選択します。初期状態では、現在選択しているメディア種別で記録できる全ての解像度で記録可能です。

チェックを外すと、その解像度の画像を記録しないようになります。ストックメディアの解像度変換時にも、その解像度の画像を作成しません。

HD 画像を記録できるのは MV-H10/D10 と EICP-D（A-Set）のみです。
「作成画像」で「SD（NTSC）画像のみ」を選択している場合は HD 画像を記録することはできません。

◇ SD 解像度

作成する SD 画像の解像度候補を選択します。初期状態では、現在選択しているメディア種別で記録できる全ての解像度で記録可能です。

チェックを外すと、その解像度の画像を記録しないようになります。ストックメディアの解像度変換時にも、その解像度の画像を作成しません。

全ての機種で SD 画像を記録することができます。
「作成画像」で「HD（高解像度）画像のみ」を選択している場合は SD 画像を記録することはできません。

メディア別変換ルール

作成元メディア種別毎に変換解像度等を設定することができます。但し、ダイアログ上部の［作成メディア画像解像度］で除外した解像度は選択できません。
タブにより以下の 4 種類から、設定を行う作成元メディアを選択します。

- MV-200,250,50M,55M,60M,65,70,71
- MV-150,180,180F / EICP-S
- MV-S10,H10,D10 / DV-700 / EICP-D
- その他（上記以外のメディア）

◇ 作成画像種別
作成メディアに記録する画像種別（HD/SD いずれか）を選択します。
「HD/SD 画像混在」でない場合は選択変更できません。

◇ HD 解像度変換
◇ SD 解像度変換
各々、「作成画像種別」が「HD（高解像度）」／「SD（NTSC）」の場合のみ有効になります。
「自動」以外を選択すると、ストックメディアの解像度を変換する際に変換後の解像度を固定することができます。
「自動」を選択すると、記録可能解像度のうち最も元の画像に近い解像度に変換します。

◇ 動画→静止画抽出位置
作成元メディアに記録されているファイルが動画ファイルである場合に、動画内の静止画抽出位置を指定します。
抽出位置の指定方法は以下の 3 通りです。

作成メディアに動画ファイルを記録することはできません。

- 先頭からの秒数指定
- 終端からの秒数指定
- 動画全体の再生時間内での相対位置（%）

作成元メディアに記録されている動画ファイルそれぞれについて抽出位置を指定することはできません。

TEAC DV-700 のみ動画ファイルを記録できます。

◇　転送マーク

作成元メディアの転送マークの取扱いを指定します。

- 継承　　作成元メディアの転送マークを継承します。
- 転送済み　作成元メディアに記録されている全てのファイルを転送済みにします。
- 未転送　　作成元メディアに記録されている全てのファイルを未転送にします。

※　作成元メディア種別が「その他」の場合は転送マークを継承することはできません。

※　転送マークの設定はストックメディアの解像度変換時に反映されます。解像度変換後のストックメディアには影響を与えません。

※ 転送マークとは

ファイル転送ソフトウェア“ViewFile Lite”でオンライン／オフライン転送すると、転送済みのファイルや検査が“転送済み”とマークされます。

ViewFile Lite は TEAC MV-S10, H10, D10 / TEAC DV-700 に付属するソフトウェアです。

● DVD-RAM ドライブチェック

「メディア」メニュー→「作成メディア」→「DVD-RAM ドライブチェック」を選択すると、DVD-RAM ドライブに初期化済みの DVD-RAM ディスクがあるか、書込み可能であるかを確認します。DVD-RAM ディスクにメディアを作成できる状態であれば“準備完了”と表示します。

DVD-RAM ディスクは、MV-S10、MV-H10、MV-D10、EICP-D（A-Set）、EICP-D（B-Set）でフォーマット済みであるか、または UDF 1.5 フォーマットで初期化済みでなくてはなりません。

※　当該機種で初期化済み、且つ書込み可能な DVD-RAM ディスクであるにも関わらず“メディアは書込禁止です。”と表示される場合、お使いの DVD-RAM ドライブが UDF 1.5 フォーマットの書込みに対応していないことが考えられます。UDF 1.5 フォーマット対応の DVD-RAM ドライバまたは B's CLiP 7 以降をインストールしてください。

作成メディアペイン下の「ドライブチェック」ショートカットボタンでも同様の操作が可能です。

メディアストック

● メディアストックペイン

メディアストックは、DVD-RAM メディアの作成元となる MO ディスク等を
保存するハードディスク内の領域です。

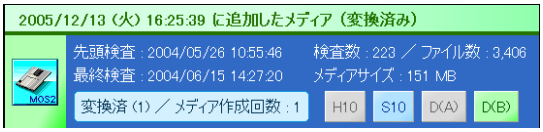
メディアストックの場所と残容量を表示します。残容量が一定値を下回るとバーが青色表示から黄色表示になります。
赤色表示になると作成元メディアをメディアストックに追加することができなくなります。

メディアストックの状態

追加済みのストックメディアを表示します。

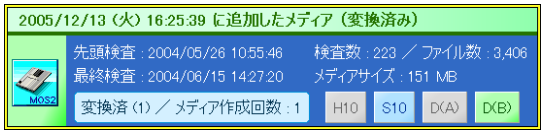
作成可	現在選択されている作成元メディア種別に対して使用可能なストックメディア数を表示します。
未作成	バックアップメディア未作成のストックメディア数を表示します。
未変換	メディアストックに追加した後、解像度変換を行っていないストックメディア数を表示します。
選択	選択されているストックメディア数を表示します。

◇ 選択されているストックメディア



ストックメディアを選択すると反転表示します。

◇ フォーカスを持つストックメディア



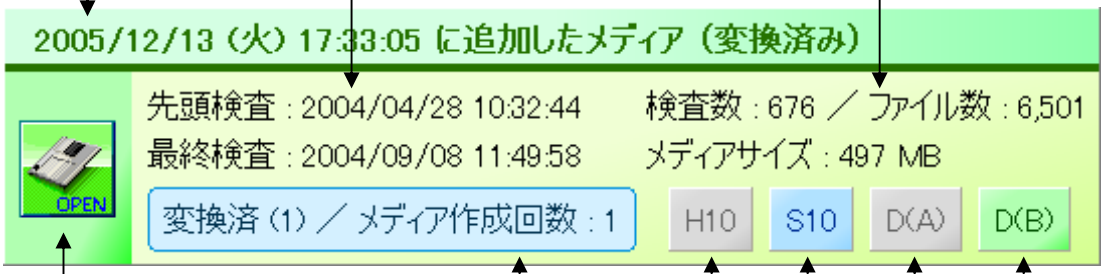
フォーカスを持つストックメディアは黄色枠で囲まれます。1 つのメディアのみを対象とする操作は、フォーカスを持つメディアのみに対して行われます。

● ストックメディア

作成元メディアの追加時にコメント／ディスクラベルを設定することができます。
作成元メディアが多数ある場合、コメント／ディスクラベルを設定することで識別が容易になります。
MO ディスクや DVD-RAM ディスクのディスクラベル（ボリュームラベル）とは関係ありません。
特に指定しない場合はメディアストックへの追加日時がコメント／ディスクラベルになります。

ストックメディアに記録されている先頭検査日時と最終検査日時を表示します。

ストックメディアに記録されている検査数、ファイル数、メディアサイズを表示します。
ファイル数、メディアサイズは画像または動画ファイル総数、総ファイルサイズです。それ以外の管理ファイル等を含みません。



MV-200,250
50M,55M,60M,65,70,71

解像度変換回数、バックアップメディアもしくは DVD-RAM メディアの作成回数を表示します。

MV-150,180,180F
EICP-S

MV-S10,H10,D10 / DV-700
EICP-D

その他

4 種類の作成メディア種別を表示します。

H10/D10	TEAC MV-H10/D10
S10	TEAC MV-S10
D(A)	OLYMPUS EICP-D（A-Set）
D(B)	OLYMPUS EICP-D（B-Set）

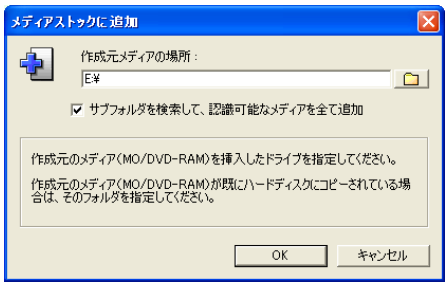
このストックメディアから作成可能なメディア種別は緑色、または水色で表示します。現在選択されている作成メディア種別は水色で表示します。
灰色表示は解像度が未変換である、または解像度が作成メディアに合わないために、このストックメディアからは作成できないことを示します。

● 作成元メディア追加

メディアストックに作成元MO/DVD-RAMディスクを追加するには、「メディア」メニュー→「メディアストック」→「作成元メディア取込み」を選択します。

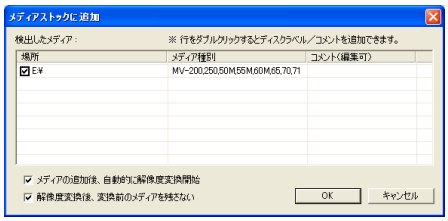
作成メディアペイン下の「メディア取込み」ショートカットボタンでも同様の操作が可能です。

「メディア取込み」ボタン



メディアストックに作成元メディアを（エクスプローラ等から）ドラッグアンドドロップすることでもメディアの追加が可能です。
複数の作成元メディアがハードディスクにある場合は、複数のメディアを一度に追加することができます。

「作成元メディアの場所」に、追加するMO/DVD-RAMドライブを入力します。作成元メディアがハードディスクにある場合は、その場所を指定します。
「サブフォルダを検索して、認識可能なメディアを全て追加」をチェックすると、指定した場所以下の全てのサブフォルダを検索して、見つかった全てのメディアを追加します。

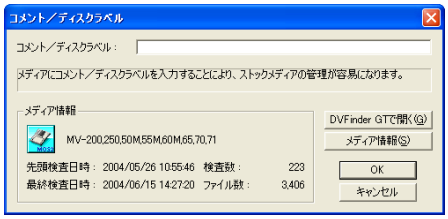


「OK」ボタンをクリックすると、見つかった作成元メディアの一覧を表示します。

「メディアの追加後、自動的に解像度変換開始」をチェックすると、作成元メディアの追加が終了すると、作成メディア種別に合うように自動的に解像度の変換を開始します。
「解像度変換後、変換前のメディアを残さない」がチェックされている場合は、解像度の変換終了時点で、変換前の作成元メディアはメディアストックに残りません。

初期状態では、「メディアの終了後、自動的に解像度変換開始」と「解像度変換後、変換前のメディアを残さない」は両方ともチェックされています。

作成元メディア一覧の一つをダブルクリックすると、そのメディアに記録されている検査内容を確認したり、コメント／ディスクラベルを設定することができます。

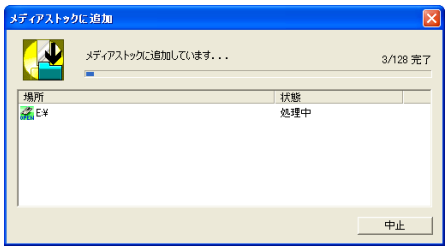


コメント／ディスクラベルは、MO ディスクや DVD-RAM ディスクのディスクラベル（ボリュームラベル）とは関係ありません。メディアストックでの管理を容易にするためのコメントです。設定しなくても構いません。

コメント／ディスクラベルを設定しない場合は、自動的に作成元メディア追加開始日時をコメント／ディスクラベルとして設定します。

「GT Finder で開く」ボタンをクリックすると、そのメディアを GT Finder で開いて（GT Finder がコンピュータにインストールされている必要があります）内容を確認することができます。
「メディア情報」ボタンをクリックすると、先頭検査日時、最終検査日時、検査数、ファイル数を調べて表示します。作成元メディアの種類や記録検査数により表示するまでに時間が掛かることがあります。

メディア種別が“その他”の場合、一部 GT Finder が対応していない（開けない）メディアがあります。



作成元メディアの追加を開始すると進行状況を表示します。メディアの追加が完了するまでお待ち下さい。

● 解像度変換

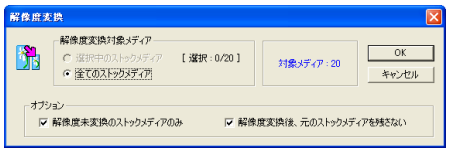
作成メディア種別によりメディアに記録できる画像の解像度（横ピクセル数×縦ピクセル数）が異なるため、全てのストックメディアについて、作成メディア種別に合わせて画像解像度を変換する必要があります。

通常は、メディアストックに作成元メディアを追加すると、現在選択している作成メディアに合わせて自動的に解像度変換が行われます。
この場合は、明示的に解像度変換の操作を行う必要はありません。

ストックメディアの解像度を変換するには、「メディア」メニュー→「メディアストック」→「解像度変換」を選択します。

作成メディアペイン下の「解像度変換」ショートカットボタンでも同様の操作が可能です。

「解像度変換」ボタン



メディアストック内で選択されているメディアのみを対象とするか、または全てのメディアを対象とするかを選択します。一つもメディアが選択されていない場合は「全てのストックメディア」のみが有効です。

「解像度未変換のストックメディアのみ」をチェックすると、解像度未変換のストックメディアのみを対象とします。
「解像度変換後、元のストックメディアを残さない」がチェックされている場合は、解像度の変換終了時点で、変換前の作成元メディアはメディアストックに残りません。

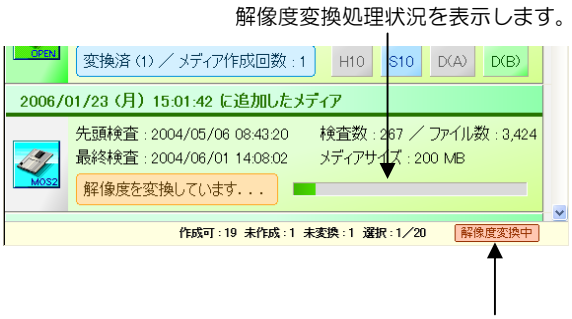
「解像度未変換のストックメディアのみ」をチェックしなければ、既に解像度変換済みのストックメディアの解像度変換を再度行うことができます。
但し、解像度変換の繰り返しは画質の劣化を伴う為お薦めできません。

「解像度変換後、元のストックメディアを残さない」をチェックしないと、解像度変換終了後、変換前と変換後の２つのストックメディアがメディアストックに残ります。

全ての条件に合致するストックメディアの数を対象メディアとして表示します。対象メディアがない場合は「OK」ボタンが無効になり、クリックすることができません。

・　解像度変換中は、進行処理状況を表示します。

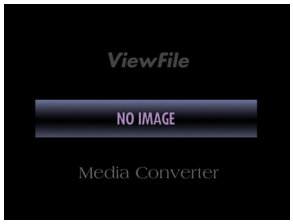
解像度変換中のストックメディアが 1 つでもあるとメディアの作成を開始することができません。全てのストックメディアの解像度変換が終了するまでお待ち下さい。



・　同時には１つのストックメディアのみの解像度変換を行います。
　　変換中のストックメディア以外は“解像度変換待機”と表示されます。

・　解像度変換開始時に選択されている作成メディア種別に合わせて解像度変換を行います。解像度変換を開始してから作成メディア種別の設定を変更してもそれらのストックメディアには設定の変更は反映されません。
　　“解像度変換待機”のストックメディアについても同様です。

解像度変換中にエラーが発生した場合、解像度変換前のメディアもメディアストックに残ります。
エラーにより変換できなかった画像は下の画像に置き換えられます。



・　解像度変換中にエラーが発生すると、ディスクラベル／コメント欄に⚠を表示します。
　　そのメディアを選択して「メディア」メニュー→「メディアストック」→「エラーログを開く」を選択すると、エラーの詳細を確認することができます。
　　メディア」メニュー→「メディアストック」→「エラーをクリア」を選択するとエラーをクリアできます。

・　同時に複数のストックメディアの解像度変換は行えません。
　　変換中のストックメディア以外は“解像度変換待機”と表示されます。

● 解像度変換中止

メニューを選択してから解像度変換処理が取り消されるまで、暫く時間を要することがあります。

「メディア」メニュー→「メディアストック」→「解像度変換中止」→「選択メディアのみ」を選択すると、選択されている解像度変換中、または解像度変換待機状態のストックメディアについて、解像度変換を取り消します。
全てのストックメディアの解像度変換処理（待機含む）を取り消すには、「全ての解像度変換中メディア」を選択してください。

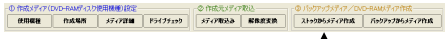
● ストックメディアからバックアップメディア／DVD-RAM メディアを作成

解像度変換が終了したストックメディアからバックアップメディア／DVD-RAM メディアを作成できます。

解像度変換が終了していないストックメディアからバックアップメディア／DVD-RAM メディアを作成することはできません。

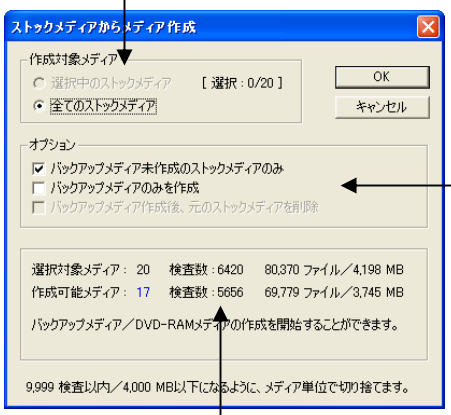
ストックメディアからバックアップメディア／DVD-RAM メディアを作成するには、「メディア」メニュー→「メディアストック」→「バックアップメディア／DVD-RAM メディア作成」を選択します。
解像度変換中、または変換待機状態のストックメディアが 1 つでもあるとメディアを作成することができません。全てのストックメディアの解像度変換が終了するまでお待ち下さい。

作成メディアペイン下の「ストックからメディア作成」ショートカットボタンでも同様の操作が可能です。



「ストックからメディア作成」ボタン

・選択中のストックメディア
　選択されているストックメディアから作成します。
・全てのストックメディア
　全てのストックメディアから作成します。



・バックアップメディア未作成のストックメディアのみ
　既にバックアップメディアを作成するために使用したストックメディアを除外します。
・バックアップメディアのみを作成
　DVD-RAM メディアを作成せずに、バックアップメディアのみを作成します。後で、バックアップメディアから直接 DVD-RAM メディアを作成できます。DVD-RAM ドライブが指定されていない、DVD-RAM ドライブに初期化済みの DVD-RAM ディスクがない場合は DVD-RAM メディアを作成できません。

本バージョンでは「バックアップメディア作成後、元のストックメディアを削除」はチェックできません。

“選択対象メディア”はメディア作成条件に適合するストックメディアを示します。
“作成可能メディア”は“選択対象メディア”のうち DVD-RAM メディアに収まるように ViewFile Media Converter が自動選択したメディアを示します。

DVD-RAM メディアに記録できる最大検査数は 9,999、最大ファイル容量（管理ファイル除く）は 4,000MB です。
この範囲に収まるように、ViewFile Media Converter は自動的にストックメディアを選択します。

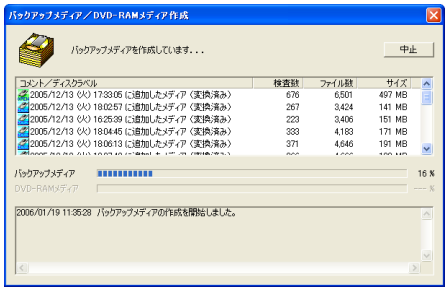
対象ストックメディアから、先頭検査日時が古いものを優先して選択します。

「OK」ボタンをクリックするとバックアップメディアの作成を開始します。

バックアップメディアを作成せずに DVD-RAM メディアのみを作成することはできません。
バックアップメディアが不要な場合は、DVD-RAM メディア作成後に削除してください。

最初にバックアップメディアを作成し、続いて DVD-RAM メディアを作成します。

「バックアップメディアのみ作成」をチェックした場合は DVD-RAM メディアを作成しません。



進行状況を表示します。

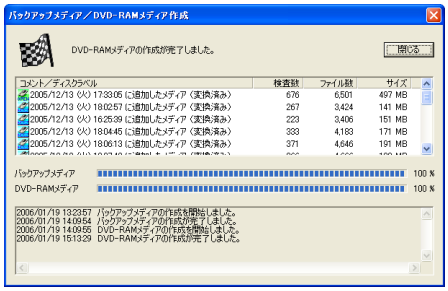
バックアップメディアの作成に先立って全ての検査を確認し、検査日時順に並べ替えます。
このとき、重複する検査を検出するとその検査を除外します。

検査開始日時（年月日時分秒）が同じで、且つ患者 ID が同じ検査のことを、重複する検査と称します。

バックアップメディアの作成が完了すると、DVD-RAM メディアの作成を開始します。
DVD-RAM メディアの作成が完了すると以下のようにメッセージを表示します。「閉じる」ボタンをクリックし、作成した DVD-RAM ディスクを取出してください。

DVD-RAM メディア作成中に「中止」ボタンをクリックして中断すると、その DVD-RAM ディスクを初期化するまでこのディスクに再度メディアを作成することはできません。

使用可能機種において、作成した DVD-RAM ディスクへの再生／記録（追加記録）が可能です。



正常にバックアップメディアの作成が終了した時点で、使用した全てのストックメディアの“メディア作成回数”を+1 します。
また、正常に DVD-RAM メディアの作成が終了した時点で、バックアップメディアの“メディア作成済”を+1 します。

● GT Finder で開く

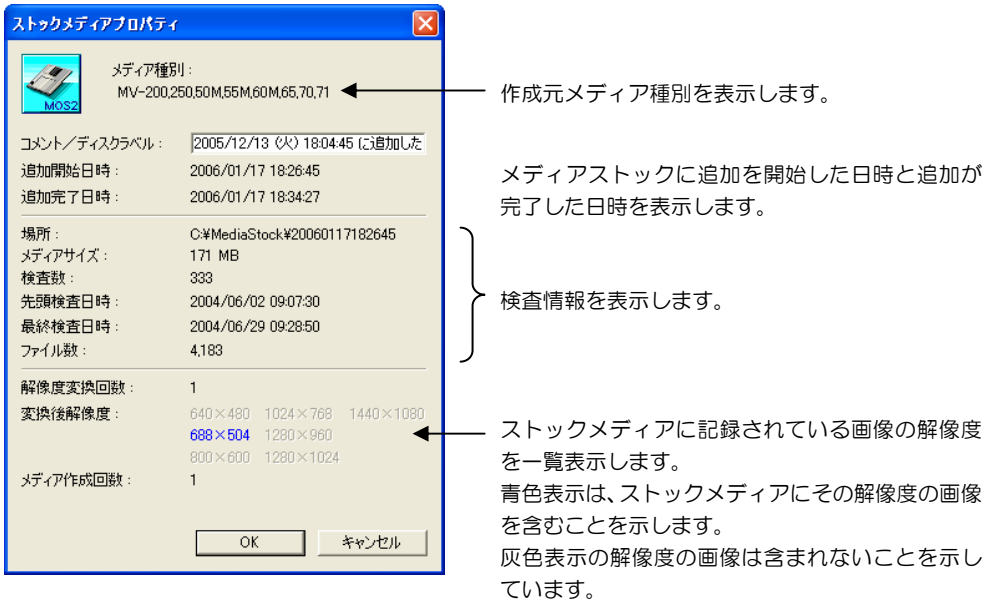
「メディア」メニュー→「メディアストック」→「GT Finder で開く」を選択すると、フォーカスを持つストックメディアを GT Finder で開きます。
GT Finder は、ViewFile Media Converter が対応する全ての作成元メディア種別に対応しているわけではありません。一部 GT Finder では開けないメディアがあります。

● フォルダを開く

「メディア」メニュー→「メディアストック」→「フォルダを開く」を選択すると、フォーカスを持つストックメディアが保存されているフォルダを開きます。

● ストックメディアのプロパティを表示する

「メディア」メニュー→「メディアストック」→「プロパティ」を選択すると、フォーカスを持つストックメディアのプロパティを表示します。



ストックメディアが解像度変換中（待機含む）でなければ、コメント／ディスクラベルを変更することができます。

メディアバックアップ

● メディアバックアップペイン

ストックメディアから DVD-RAM ディスクを作成する際、作成する
DVD-RAM ディスクの内容を、自動的にメディアバックアップに保存します。

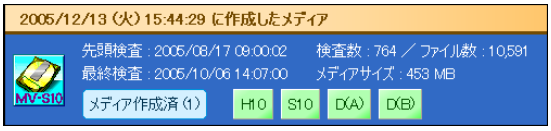
メディアバックアップの場所と残容量を表示します。残容量が一定値を下回るとバーが青色表示から黄色表示になります。
赤色表示になるとバックアップメディア／DVD-RAM ディスクを作成することができなくなります。

メディアバックアップの状態

作成したバックアップメディアを表示します。

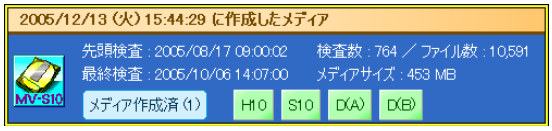
未作成	DVD-RAM メディア未作成のバックアップメディア数を表示します。
選択	選択されているバックアップメディア数を表示します。

◇ 選択されているバックアップメディア



バックアップメディアを選択すると反転表示します。

◇ フォーカスを持つバックアップメディア



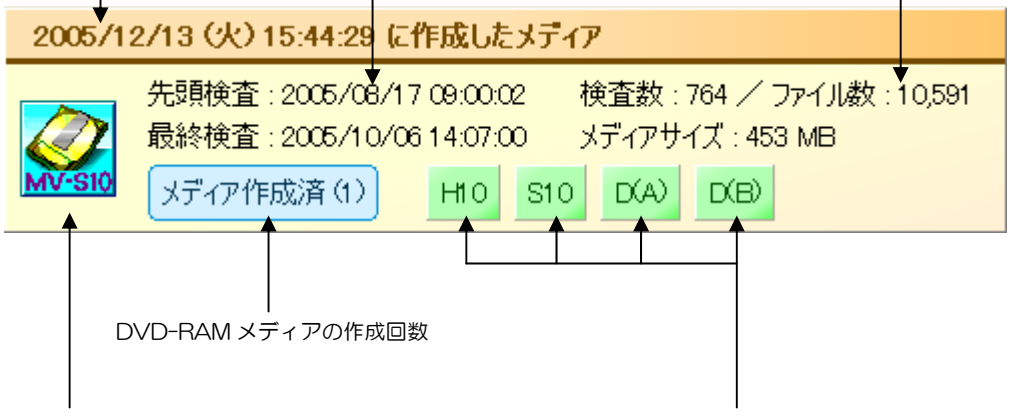
フォーカスを持つバックアップメディアは黄色枠で囲まれます。1 つのメディアのみを対象とする操作は、フォーカスを持つメディアのみに対して行われます。

● バックアップメディア

バックアップメディア作成時にコメント／ディスクラベルを設定することができます。
バックアップメディアを削除せずに保存しておく場合、コメント／ディスクラベルを設定することで識別が容易になります。
作成する DVD-RAM ディスクのディスクラベル（ボリュームラベル）とは関係ありません。
特に指定しない場合はバックアップメディアの作成日時がコメント／ディスクラベルになります。

バックアップメディアに記録されている先頭検査日時と最終検査日時を表示します。

バックアップメディアに記録されている検査数、ファイル数、メディアサイズを表示します。
ファイル数、メディアサイズは画像または動画ファイル総数、総ファイルサイズです。それ以外の管理ファイル等を含みません。



DVD-RAM メディアの作成回数

バックアップメディア作成時に選択した作成メディア種別をアイコン表示します。

MV-H10/D10

MV-S10

EICP-D （A-Set）

EICP-D （B-Set）

4 種類の対象機種を表示します。

H10/D10	TEAC MV-H10/D10
S10	TEAC MV-S10
D(A)	OLYMPUS EICP-D（A-Set）
D(B)	OLYMPUS EICP-D（B-Set）

このバックアップメディアから作成するDVD-RAMメディアを使用可能な機種を緑色で表示します。灰色表示はその機種では使用できないことを示します。

使用可能機種一覧

DVD-RAM	MV-H10/D10	MV-S10	EICP-D(A)	EICP-D(B)
MV-H10/D10	○	×	△	×
MV-S10	○	○	○	○
EICP-D(A)	○	×	○	×
EICP-D(B)	○	○	○	○

○　使用可能
△　解像度により使用可能
×　SD 画像のみ記録されている場合は使用可能

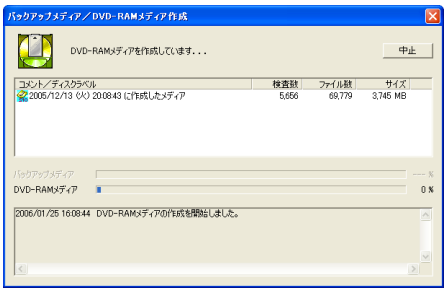
● バックアップメディアから DVD-RAM メディアを作成

バックアップメディアから DVD-RAM メディアを作成できます。

バックアップメディアから DVD-RAM メディアを作成するには、バックアップメディアを１つ選択して「メディア」メニュー→「メディアバックアップ」→「DVD-RAM メディア作成」を選択します。
フォーカスをもつバックアップメディアが対象となります。

作成メディアペイン下の「バックアップからメディア作成」ショートカットボタンでも同様の操作が可能です。

「バックアップからメディア作成」ボタン



DVD-RAM メディアの作成が完了したら、DVD-RAM ディスクを取出して下さい。
正常に DVD-RAM メディアの作成が終了した時点で、バックアップメディアの“メディア作成済”を+1 します。

DVD-RAM メディア作成中に「中止」ボタンをクリックして中断すると、その DVD-RAM ディスクを初期化するまでこのディスクに再度メディアを作成することはできません。

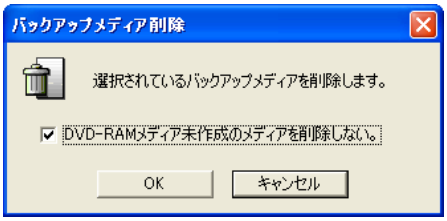
使用可能機種において、作成した DVD-RAM ディスクへの再生／記録（追加記録）が可能です。

● バックアップメディアの削除

不要になったバックアップメディアは削除することができます。もちろん、そのままメディアバックアップに残しておくこともできます。

バックアップメディアを削除するには、削除するバックアップメディアを選択して「メディア」メニュー→「メディアバックアップ」→「バックアップメディア削除」を選択します。

「DVD-RAM メディア未作成のメディアを削除しない」がチェックされている場合は、DVD-RAM メディアを作成したことがなければ、選択されているバックアップメディアであっても削除しません。



● GT Finder で開く

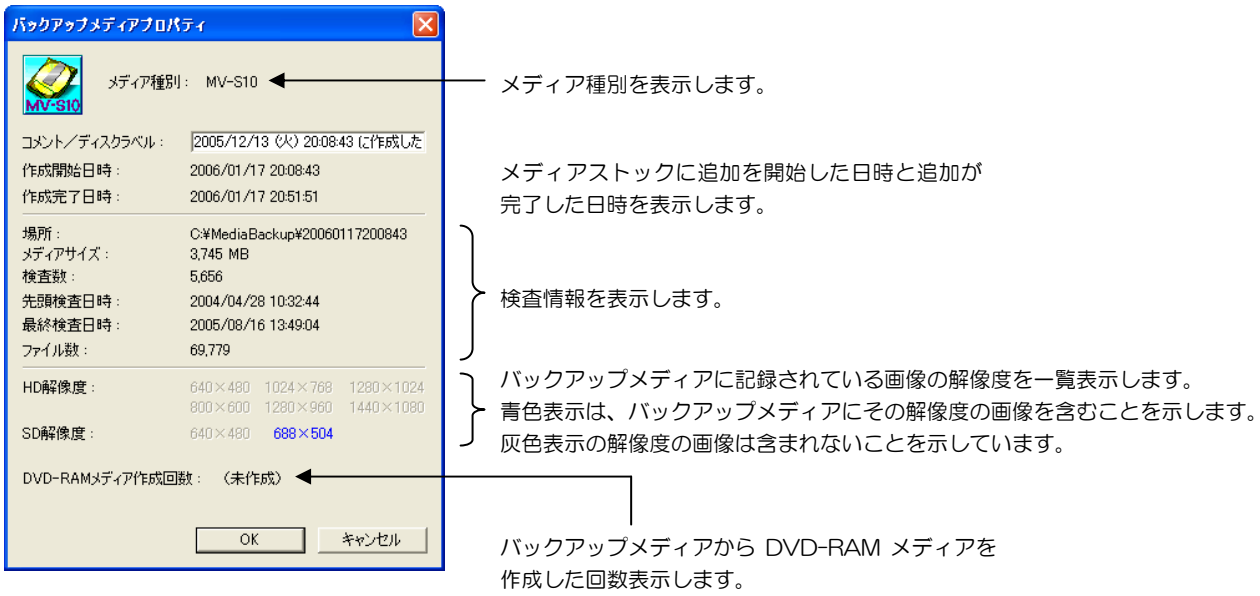
「メディア」メニュー→「メディアバックアップ」→「GT Finder で開く」を選択すると、フォーカスを持つバックアップメディアを GT Finder で開きます。

● フォルダを開く

「メディア」メニュー→「メディアバックアップ」→「フォルダを開く」を選択すると、フォーカスを持つバックアップメディアの保存場所を開きます。

● バックアップメディアのプロパティを表示する

「メディア」メニュー→「メディアバックアップ」→「プロパティ」を選択すると、フォーカスを持つバックアップメディアのプロパティを表示します。



バックアップメディアを残して管理する場合は、識別し易いようにコメント／ディスクラベルを変更すると便利です。

メニュー

メインウィンドウタイトルバーの下にメニューを表示します。

■ 「ファイル」メニュー

◇「終了」

ViewFile Media Converter を終了します。

■ 「メディア」メニュー

「メディア」メニューには、作成メディア、メディアストック、メディアバックアップそれぞれに対して行う操作を表示します。

●「作成メディア」

◇「作成メディア種別／使用機種」

作成する DVD-RAM メディアの使用機種を選択します。（☞ 18 ページ）

◇「作成場所／DVD-RAM ドライブ」

DVD-RAM メディアを作成する DVD-RAM ドライブを指定します。（☞ 19 ページ）

◇「詳細」

作成メディアに記録する解像度を固定したり、作成元メディアの動画ファイルから静止画を抽出する位置を指定します。（☞ 20 ページ）

◇「DVD-RAM ドライブチェック」

DVD-RAM ドライブに初期化済みの DVD-RAM ディスクがあるかどうかを確認します。（☞ 23 ページ）

◇「GT Finder で開く」

DVD-RAM ドライブに、有効な検査情報が記録されている DVD-RAM メディアがあれば GT Finder を起動してそのメディアを開きます。

●「メディアストック」

◇「作成元メディア取込み」

メディアストックに作成元メディアを追加します。（☞ 26 ページ）

◇「作成回数をクリア」

選択されているストックメディアの“メディア作成回数”をクリアして“未作成”にします。

解像度変換回数をクリアすることはできません。

◇「ストックメディア削除」

選択されているストックメディアを削除します。

◇「解像度変換」

作成メディア種別（使用機種）に合わせて、ストックメディアに記録されている画像の解像度を変換します。（☞ 28 ページ）

解像度変換が終了した時点で、そのストックメディアから作成可能なメディア種別が決まります。

初期設定では、メディアストックに作成元メディアを追加すると自動的に解像度変換を開始するため、明示的に操作を行う必要はありません。

◇「このメディアのみ解像度変換」

選択されているストックメディアのみを解像度変換します。他のストックメディアが解像度変換中であってもこの操作を行うことができます。

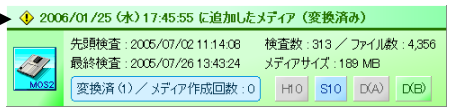
◇「解像度変換中止」

実行中の解像度変換処理を中断、または、解像度変換待機状態をキャンセルします。

◇「エラーログを開く」

解像度変換中に画像変換エラーが発生すると、ストックメディアに⚠アイコンを表示し、エラーの内容を確認できます。（☞ 29 ページ）

解像度変換中にエラーが発生したことを示します。



◇「エラーをクリア」

解像度変換エラーログをクリアして⚠アイコンを削除します。

◇「GT Finder で開く」

フォーカスをもつストックメディアを GT Finder で開きます。

GT Finder が見つからない場合はプロパティを表示します。

◇「フォルダを開く」

フォーカスをもつストックメディアが記録されているフォルダを表示します。

◇「全て選択」

全てのストックメディアを選択します。

◇「プロパティ」

フォーカスをもつストックメディアのプロパティを表示します。

（☞ 32 ページ）

●「メディアバックアップ」

◇「DVD-RAM メディア作成」

フォーカスをもつバックアップメディアから DVD-RAM メディアを作成します。（☞ 35 ページ）

◇「作成回数クリア」

選択されているバックアップメディアの“メディア作成済”をクリアして“未作成”にします。

◇「バックアップメディア削除」

選択されているバックアップメディアを削除します。

◇「GT Finder で開く」

フォーカスをもつバックアップメディアを GT Finder で開きます。

GT Finder が見つからない場合はプロパティを表示します。

◇「フォルダを開く」

フォーカスをもつバックアップメディアが記録されているフォルダを表示します。

◇「全て選択」

全てのバックアップメディアを選択します。

◇「プロパティ」

フォーカスをもつバックアップメディアのプロパティを表示します。

（☞ 36 ページ）

■ 「表示」メニュー

「表示」メニューでは、メインウィンドウにおける表示方法の変更や、ログファイルを開くことができます。

◇「フォント」

ViewFile Media Converter で文字を表示する際に使用するフォントサイズを指定します。

ダイアログで使用されるフォントのサイズはシステムで設定されているフォントサイズに従います。ViewFile Media Converter では変更できません。

・標準　　標準サイズのフォントにします。
・大　　大きなサイズのフォントにします。
・特大　　特大サイズのフォントにします。

フォントサイズは、システムで設定されている標準フォントのサイズを基準にしています。

◇「日付」

日付を表示するときの形式を指定します。

・YYYY/MM/DD
　　西暦 4 桁年、“/”区切りの形式で日付を表示します。
・YY/MM/DD　西暦 2 桁年、“/”区切りの形式で日付を表示します。
・GYY.MM.DD　元号 2 桁年、“.”区切りの形式で日付を表示します。

◇「ログ」

ViewFile Media Converter の動作中に問題が発生したときに、ログファイルやエンジニアリングログファイルが問題解決のために役立ちます。

・ログファイルを開く
　　ログファイルの内容を表示します。
・エンジニアリングログファイルを開く
　　エンジニアリングログファイルの内容を表示します。

◇「ツールバー」

ツールバーの表示／非表示を切替えます。

◇「ステータスバー」

ステータスバーの表示／非表示を切替えます。

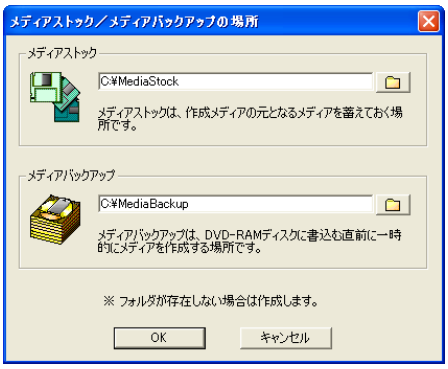
■ 「設定」メニュー

「設定」メニューでは、ViewFile Media Converter の各種動作に関する設定が行えます。

◇「フォルダ」

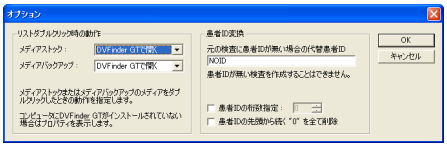
メディアストックとメディアバックアップの場所を変更します。

メディアストック／メディアバックアップの場所を変更しても、既に記録されているストックメディアやバックアップメディアは移動しません。
これらを新たなメディアストック／メディアバックアップに移動するには、元のメディアストック／メディアバックアップ内の全てのフォルダを手作業で移動してください。



◇「オプション」

ストックメディア／バックアップメディアをダブルクリックしたときの動作と患者 ID の変換規則を設定します。

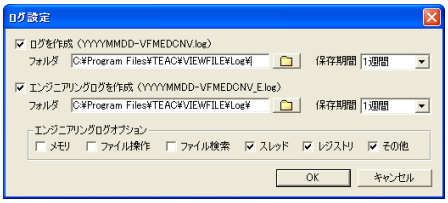


◇「高度な設定」

本バージョンでは設定可能な項目はありません。

◇「ログ」

ログファイル、エンジニアリングログファイルを作成するかどうかを設定します。



■ 「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューでは、オンラインヘルプを表示したり、ViewFile Media Converter のバージョンを確認することができます。

◇「トピックの検索」

本バージョンではオンラインヘルプを表示できません。

◇「取扱説明書」

ViewFile Media Converter の取扱説明書ファイル（PDF）を開きます。

ViewFile Media Converter の取扱説明書がインストールされていない場合はメニューが無効となり、選択することができません。

ViewFile Media Converter の取扱説明書を開くには、PDF ファイルを開くアプリケーション（Adobe Reader 等）がコンピュータにインストールされている必要があります。

◇「ViewFile Media Converter アップデート WEB サイト」

インターネットブラウザで ViewFile Media Converter のアップデートページに移動します。

最新バージョンのソフトウェアをダウンロードすることができます。

◇「バージョン情報」

ViewFile Media Converter のバージョン情報と、ライセンスコードを表示します。

ViewFile Media Converter のバージョンを表示します。

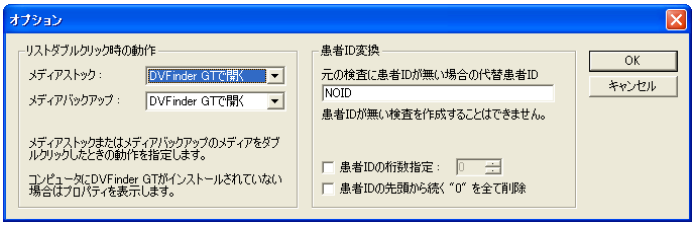
設定

ViewFile Media Converter には動作に関するいくつかの設定項目があります。
殆どの場合は設定を変更する必要はありません。

オプション

ストックメディア／バックアップメディアをダブルクリックしたときの動作と、作成元メディアに患者 ID が無い検査が記録されている場合に置き換える患者 ID 等を指定できます。

オプションを設定するには、「設定」メニュー→「オプション」を選択します。



◇ リストダブルクリック時の動作

メディアストック／メディアバックアップそれぞれに対して、メディアダブルクリック時の動作を「GT Finder で開く」と「プロパティを表示」から選択できます。

◇ 元の検査に患者 ID が無い場合の代替患者 ID

作成元メディアによっては、患者 ID が無い検査があります。ViewFile Media Converter が作成する DVD-RAM メディアでは、患者 ID が無い検査を作成することができないため、代替患者 ID を指定する必要があります。

患者 ID の置き換えは、解像度変換時に行われます。

◇ 患者 ID の桁数指定

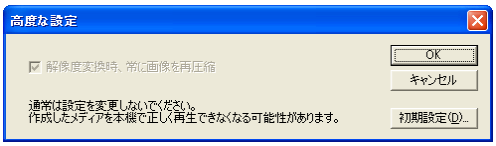
全ての患者 ID の先頭に “0” を必要数追加して桁数を揃えます。既に患者 ID が指定桁数以上である場合は変更を加えません。従って既存の患者 ID よりも桁数が減少することはありません。

◇ 患者 ID の先頭から続く“0”を削除

患者 ID が”0”から始まる場合に、“0”以外の文字／数字が現れるまで“0”を取り除きます。但し、患者 ID が全て“0”で構成されている場合は一文字だけの“0”になります。

高度な設定

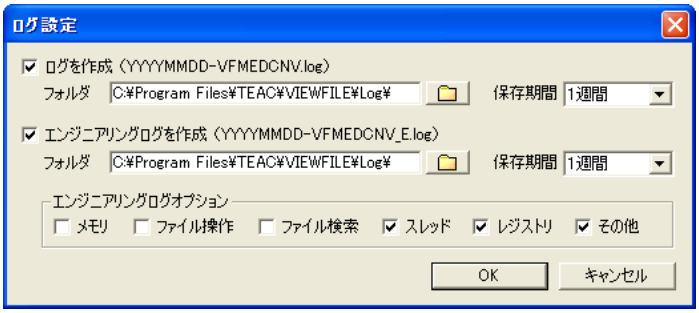
高度な設定ダイアログを表示するには、「設定」メニュー→「高度な設定」を選択します。本バージョンでは設定を変更することはできません。



ログファイル設定

ログファイルを作成するかどうかを指定します。

ログファイルの設定をするには、「設定」メニュー→「ログ」を選択します。



ViewFile Media Converter の動作中に何らかの不具合が発生したときに、問題解決のためにログファイルが役に立ちます。エンジニアリングログは、ログファイルよりもさらに詳細な実行状況をログとして残します。

ログファイル／エンジニアリングログを参照するには、メインウィンドウの「表示」メニュー→「ログ」→「ログファイルを開く」／「エンジニアリングログファイルを開く」を選択します。

ティアック株式会社　情報機器事業部 BS ビジネスユニット

製品に関するお問い合わせは・・・	営業部 営業 1 グループ	〒180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3	
		TEL 0422-52-5010	FAX 0422-52-1990
技術的なお問い合わせは・・・	営業部 営業 1 グループ	TEL 0422-52-5010	FAX 0422-52-1990
	受付時間 9:30～12:00／13:00～17:00（土・日・祝日を除く）		

ティアック 情報機器事業部 BS ビジネスユニット 営業部 MV ホームページ　http://www.teac.co.jp/ipd

E-mail　ipd-mv@teac.co.jp